

(2012年度日本経済学会春季大会発表用)

**カタストロフィック・リスクと最適な財政政策（報告要旨）**

一橋大学国際・公共政策大学院 國枝繁樹

我が国では、財政赤字のリスクにつき持続可能性を中心に分析が行われてきたが、財政赤字のリスクを財政破綻確率のみに着目して論じるのは、経済学的には適当ではない。財政破綻確率は低くとも、それが深刻な影響を及ぼすのであれば、リスク回避的な個人の経済厚生を大きく低下させる財政政策となりうるからである。本稿においては、不確実性下での財政政策の社会厚生の評価のあり方につき論じる。その際、家計のリスク回避度が重要な役割を果たすため、株式リスク・プレミアム・パズル、大地震等のカタストロフィック・リスク、国債のコンビニエンス・イールド等の影響につき考察する。その結果、カタストロフィック・リスクが存在する中、財政破綻の発生確率が小さくても発生時の影響の深刻さを考えれば、「ポンジー財政政策」または「財政赤字ギャンブル」は、将来世代にリスクを押し付けるだけであり、社会厚生を低下させることを示す。